

第48回 江戸川区廃棄物減量等推進審議会 議事録

開催日 平成28年7月11日(月)

会場 グリーンパレス 2階 芙蓉

報告事項 ~ビデオ放映~

「ごみの中にも宝アリ！小型家電リサイクル」

- (1) 平成27年度のごみ量・資源量(速報値)について
- (2) えどがわ食べきり推進運動について
- (3) 第8期江戸川区分別収集計画について

その他

江戸川区廃棄物減量等推進審議会事務局
(江戸川区環境部清掃課)

【岡島会長】

ただいまから、48回の江戸川区廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。

今回は、第8期の委員の任期が8月までということですので、現委員の皆様で行う最後の会となります。会議の最後に委員の皆様、一言ずつ、お願いいたします。よろしく
お願いいたします。

それでは、まず初めに新委員及び環境部職員人事異動について、事務局からお願いいたします。新委員のお二方につきましては、ご挨拶をお願いいたします。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございます。それでは、新たに委員になられた方をご紹介させていただきます。

生活振興環境委員会委員長になられました竹内進議員でございます。

【竹内委員】

よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

今年度の議会の生活振興の環境委員会の委員長ということで、先ほど部長のほうからご紹介いただきましたけれども、7月1日付の江戸川区の広報に、区長さんのほうから食品ロスのご紹介が詳しく書かれておりまして、我々もそうなんですけれども、よくさまざまな懇親会などに行きますと、どうしても食べ残しというか、多いんです。区長さんも、これに書いていただきましたけれども、3010運動ですか、要するに、乾杯後ですけれども、30分間は立たずにしっかり食事をとりましょうよと。残りの、お開きになる前の10分間は、ちゃんと自席に戻って残った料理をしっかりいただきましょうよという運動を、まず我々区議会のほうからしっかりさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【事務局（岡崎課長）】

続きまして、同委員会副委員長の野崎信議員でございます。

【野崎委員】

どうもはじめまして。野崎信と申します。

ただいまの竹内委員長のもと、副委員長を務めさせていただくことになりました。まだ、いかんせん、今、区議会でも最後だということで、初めてのご挨拶で、何か辻褄が合わないなという感ですが、ただ、やはり今、いろいろな部分で、豊かな部分と差がある、格差という部分もあると思いますが、子ども食堂や、今までの中でのなごみの家だとか、いろいろな部分もできていますので、アイデア次第では人と人の心のつながるのかなと思うので、無駄がないようにできればいいなと思います。

しっかりと一つ情報をいただければありがたく思います。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございました。

続きまして、資料1に載っておりますけれども、環境部の転入職員をご紹介いたしま

す。前職、健康部の健康推進課から、今回、清掃課の庶務係長に異動になりました森欽弥でございます。

今まで、清掃課の庶務係長をやっておりました目黒清臣につきましては、定年退職で、再任用として、今、小松川清掃分室のほうに異動となっておりますので、よろしく願いたいいたします。

事務局からは以上でございます。

【岡島会長】

それでは、報告事項に移ります。本日は、ビデオ放映の後、3件ご報告させていただきます。

それでは、事務局から願いたいいたします。

【事務局（岡崎課長）】

それでは、本日は、まず初めに、6月20日から放映されておりました「えどがわ区民ニュース」をごらんをいただきたいと思っております。内容は、もうご存じだと思うんですが、28年度から開始いたしました燃やさないごみからの小型家電リサイクルを特集した部分を、本日、ごらんいただきます。お時間は15分程度となりますので、よろしく願いたいいたします。

（ビデオ放映）

【岡島会長】

ありがとうございました。岡崎さん、なかなかいい男ですね。

それでは、平成27年度のごみ量・資源量（速報値）につきまして、事務局から願いたいいたします。

【事務局（岡崎課長）】

それでは、続きまして、資料2になりますが、こちらのほうからご説明させていただきます。

27年度のごみ量・資源量について速報値が出ましたので、改めましてご紹介を申し上げます。

これにつきましては、既に皆様、ご承知のとおり、平成12年度に清掃事業が区に移管されまして、その当時は、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみとあわせまして16万3,202トンということでしたが、平成27年度は13万1,606トンということで、大幅に減ってきているところでございます。

ただ、先ほど、部長からもお話がありましたとおり、平成26年度と比べますと、146トンほど、0.11%ということになりますが、若干増ということでした。これにつきましては、これまでずっと減少のトレンドでありましたが、ここに来て少しとまってしまったといえますが、横ばいになってしまったというところがあります。

これにつきましては、ほんとうにこれ、どういう原因かということこれから分析を思っておりますが、ごみ処理で見ますと、燃やすごみが67トン、0.05%増、燃や

さないごみは順調に減少しておりまして、132トンの減ということでございます。粗大ごみは、ここに来て小型家電類の購買等もあったのでしょうか、211トンの増ということで、5.64%の増。この辺を、全部、相殺しますと、先ほど申しましたような若干の増となっております。

23区の状況を申し上げますと、速報値で見た結果でございますが、7区が増傾向、または横ばいで、他区も微減という状況でございます。23区全体としてもトレンドが変わってきたということが考えられると思っております。

ただ、これについては、やはり20%削減に向けて、しっかりと今後、分析をして、さまざまな手を尽くしてまいりたいと考えております。

また、次に資源量でございますが、先ほどのビデオにありましたとおり、今現在、やはり3万2,000トンほどで横ばい傾向ということでございます。これについても、今年度は燃やさないごみから小型家電リサイクルということで、これについては1,000トンから1,200トンほどが資源に回ってくるということになりますので、燃やさないごみについては相当また減って、なおかつ資源回収量が若干アップする状況にあります。今後、それ以外の、雑紙でありますとか、容器包装プラスチックのさらなる分別でありますとか、とにかくできる限りの手を尽くして取り組んでまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。

人口が増えたとか、そういうことはない？

【事務局（岡崎課長）】

人口については、今、68万5,000ということで、微増といえますが、また増える傾向になっております。

【岡島会長】

それでは、今の速報値につきまして、ご質問、ご意見がありましたらどうぞお願いいたします。原因については、今、分析中ということです。

それでは、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは次に、えどがわ食べきり推進運動について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（高橋係長）】

続きまして、資料3-1、えどがわ食べきり推進運動につきまして、ご説明させていただきます。資料3-1をごらんいただきたいと思っております。

区民一人一人が食品ロス削減に対する理解を深め、具体的な行動に移せるよう啓発活動を実施いたします。現在のところ、周知方法としましては、広報、ホームページ、連町での定例会、商店街の連合会、食品衛生協会、学校長、いろいろ、この資料の3-2

のチラシを使って、いろいろな場面で周知を行っているところでございます。

続きまして、次のPRポスターでございますが、中学校美術部に協力依頼をいたしまして、9月から掲示を予定しているところでございます。

3つ、運動の種類がありますが、1番目の食べきり推進店でございます。こちらでございますが、資料3-3のチラシを使いまして、食べ残しの削減などに取り組む店舗を食べきり推進店として紹介、ポスター、ステッカーを掲示するものでございますが、このチラシを使いまして、各スーパーなどへお送りして、今、募集をかけているところでございます。近隣の商店などは、直接、職員が訪問して、このチラシ等で趣旨等を説明して、登録を、今、していただいているところでございます。

店舗紹介としましては、9月から集まったものをホームページで紹介をする予定でございます。7月8日現在、115店舗の登録をいただいているところでございます。

続きまして、食べきりレシポトークショーでございますが、日時が11月6日(日)午後、グリーンパレスで行う予定でございます。講師は料理研究家の行長万里さんを予定しております。第1部としまして、トークショーで約200名ほど、第2部でクッキング教室と映画の上映を予定しております。当日、参加された方の中から、抽せんで30名のクッキング教室の方を決めたいと思っております。

これから、広報、ホームページ、町会の回覧などで、さまざまな方法で周知のほうを行っていきまして、11月6日実施という形になっております。

一番下でございますが、フードドライブ、27年度から開始したもので、今年度は環境フェアで、一度、6月に終わっておりますが、今年度は10月、区民まつりを予定しております。

以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。

えどがわ食べきり推進というのは誰かが考えたんですか。なかなかうまい方法で、わかりやすいですね。食品ロスなんて言うとわかりにくいけれども、食べきりという何となくわかる感じがする。

どうぞ。

【事務局(岡崎課長)】

ありがとうございます。少しでも、食品ロスという言葉は難しいということもございますので、なるべく区民の皆様のスッと頭に入ってもらいたいような文言を考えまして、今回、えどがわ食べきり推進運動という形で進めさせていただきたいと思っております。

これから、いろいろな場面で働きかけをしてまいりたいと思っておりますので、皆様もぜひご協力をよろしく願いいたします。ありがとうございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。

どうでしょう、食べきり推進運動。おもしろいアイデアを3つも出して、なかなかいいんじゃないかと思うんですけれども、ご意見があれば。もっとおもしろいことをやったほうがいいよというご意見でもよろしいです。

この食べきり推進店というのは、そこに登録されると何かいいことがあるんですか。区役所のホームページにいっぱい名前を出してもらったりとか、何となくよさそうな店だみたいなイメージを与えるとか。

【事務局（岡崎課長）】

今、職員のほうで店のほうに、もう1回、一店舗、一店舗行っていて、お店の外観でありますとか、いろいろと一言、こういうPRをとというものもいろいろと教えていただいて、それをまたホームページに、全部、写真も入れたり、一言入れたり、お店のいいところはこういうところだということも合わせて、要は私どもの食べきり推進運動というものと、実際、やっていただいた店のよさをPRしてやっていこうということで、今、やっております。

【岡島会長】

ゆるキャラがあるではないですか。ああいうものに、「食べきり推進店」とぺたっと貼りつけるとか、それで、区役所で広報か何かで、食べきり推進店はいい店だみたいなイメージが出せれば、出すほうも、店のほうも客がちゃんと来てくれるだろうし、どっちみち余すものじゃなくて、小盛りもいいよというような、値段が同じだったらかえってもうかるわけだから、そういうふうにうまいことやれば、結構はやるんじゃないですか。おもしろくやったらどうでしょうか。マスコットを使ってみるとか。

どうでしょう、皆さん、何かご意見があったら。

【松川委員】

すごく感じます、日々。すごく、日々、感じます。いいです。

【岡島会長】

そうですね。

【松川委員】

今、お聞きしたときに、日々、そうだなと思っております。残すんですよね。余分に買いますし。だから、主婦を対象に浸透させていくことかもしれないです。

あとは、宴席などで見ていますと、男性はほとんど残しますね。女性はわりと食べる部分はありますけれども、ほんとうにもったいないなと思いながら、中には残りをいただいでいく方たちもいますけれども。

すみません、以上です。

【岡島会長】

先ほど区長のお話はいいですよ。私も宴席が多いほうなんですけれども、食べないと夜中に腹が減るし、酒だけだと体にも悪いでしょう。酒をついだり、つがれたりするのが忙しくて食べる時間がないから、はい、これから15分食べましょうとか、司会が

言ってくれば、食べて、それからまた酒を飲めば体にもいいし、そういうことをルー
ル化していけばいいのではないのでしょうか。まず議会ではそうするとか、役所の宴会は
どうするとか、だんだんそれが浸透していくと、江戸川方式になったりしたら、案外、
健康にいいし、残さないし、強いて言えばおみやで持って帰るのもいいけれども、食中
毒なんかを起こすとまずいから、その辺、気をつけなければいけないんですけれど。

なかなかおもしろい企画で、これ、ちょっと進められれば、あの手この手でみんなが
おもしろくやれるようになると効果は大きいのではないのでしょうか。ぜひ頑張っていた
だければと思います。

ほかに何かありますか。ではお二方。

【小野瀬委員】

私、3010というような、1週間前にちょっとたまたまそういう会合がございまし
て、山崎部長さんもおいでになりました。そのときに、私たちの3010ということも、
冒頭、竹内先生から話があったように、区長のことが……、開会して30分は食事に専
念するという、ついでりやったりではなくて、食べることに専念する。そして、1
0分前には席に戻って残ったものを平らげる。そういうふうになれば結局残る。残った
ものというのは、結局、捨てるわけです。捨てるものというのは、これは食べるもので
すから、結局、燃えるごみのほうに入るわけです。ただ、実際にはそれは無駄ですね。

そうすると、やはりせっかくの宴会に、ただで食べているわけじゃないわけだから、
金を使って食べているわけですね。金を使って食べて、また残しているということじゃ
なくて、それはつくったほうにしたら、やはり違和感があると思うんです。それが、「き
ょうの宴会は全部きれいになくなっているな」ということになれば、つくったほうでも
ここの会はいいなというふうに感じられるだろうと思います。

ですから、この3010運動というのは、もう我々のほうでもマイバッグでもそうで
すけれども、我々も事あるごとにそういう、会合があった場合には、これを進めていっ
たらいいのかなと思っております。

【岡島会長】

どうぞ。

【波多野委員】

食べきり推進店はすごくいい取り組みだと思うんですが、これはこういうことをやり
ますという宣言をされるのかというのと、宣言があれば、ステッカーにこの店はこうい
うことを取り組みます、やっていますということを言っているといいなと思いました。

【岡島会長】

申込書があったから、ちょっとその辺を説明してください。

【事務局（高橋係長）】

お配りしました資料の3-3、この裏側、その2番、取り組み内容、こちらの、ど
こか1つでも該当する丸をしていただければ、該当、登録できるという形になっており

ます。

【波多野委員】

質問では、こういう取り組みをしますというステッカーで。

【事務局（高橋係長）】

ステッカーの中にはそこまでは細かくは、記載はちょっと難しいという形になっております。

【岡島会長】

よろしいですか。各お店でもおもしろく工夫してもらわないと、ただ、この登録申込書というのはいかにも役所が偉そうだよな。もうちょっとお店の皆様にご協力いただくという姿勢がにじみ出ていないといけないんだけど、これは登録を申請しなさいなどという感じに……。きちんと考えないと、いかにもしてあげるよみたいなところが出るから、ちょっとやわらかくしたらいんじゃないかと思えますね。

どうぞ、牧野さん。

【牧野委員】

ご足労だと思うんですが、区内に全国的なチェーン店のお店もあると思うんです。そういうところにちょっとこれを持って行っていただいて、どういう反応を示すか、後で、この審議会でもた教えていただければ参考になるかなと思うので。

【岡島会長】

ありがとうございます。公表するぞと言ったら、みんなオーケーする。（笑）

どうぞ、金子さん。

【金子委員】

食品リサイクル法では、要はこういう事業者が残した残渣が100万トン以下だと罰則だとか、いろいろあるんです。そういうことも含めて意思を決めてもらう。だから、注意というか、そういう にすればみんながつながる。そう思うんです。

【岡島会長】

ありがとうございました。

これは皆さんも参加できるし、区長みずから、3010というんですか。これ、いいですね。1510ぐらいでもいい。30分も食ってられないから、15分ぐらいで、みんな、早めに食べるということでもいいんですけども、いいことだと思いますので、ぜひ推進していただければと思います。

【事務局（山崎部長）】

先生、ちょっとよろしいですか。3010というのは、長野の松本市で最初に始めた取り組みなので、それをちょっと借用してやりたいなと思っているので、一応、ご承知おきをお願いしておきます。

【岡島会長】

了解です。江戸川方式ではなくて、長野方式でも何でもいいですけども、ぜひやっ

たらしいですね。

それでは、次に資料4の第8期江戸川区分別収集計画について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（高橋係長）】

次に、資料4番、第8期江戸川区分別収集計画につきまして、ご説明させていただきます。

この計画につきましては、容器包装リサイクル法に規定されておりました、3年ごと、5年を1期とする容器包装廃棄物の分別計画を定めるものです。

5番の計画量の算定方法でございますが、容器包装プラスチック以外の容器につきましては、生産量の推計と人口推計から区内の排出見込量を推定しまして、その数値に回収見込率を掛けて算出しているものでございます。

容器包装プラスチックにつきましては、平成27年度の回収実績から1人当たりの年間排出量を推定して、その数値に人口推計を掛けて出したものです。

6番の分別収集品目と分別収集計画量でございますが、スチール製容器、アルミ製容器、これはスチール缶とアルミ缶のことでございます。全体を見ますと、スチール缶以外は、今後の計画としましてやや増加ないし微増傾向でございます。紙パックとプラスチック容器包装につきましては、横ばいとなっております。計算量の算定につきましては、人口推計も加味されていますので、江戸川区の人口は増加傾向が続きまして、平成37年にピークを迎え、その後は減少すると推計されている関係で、こういった結果になっております。

簡単ではございますが、以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。

分別収集計画について、どうでしょう、皆さん、ご意見があれば、またご質問があればお受けしたいと思います。

全体でいくと、やはり少し増えるという感じですか。全体でいくと、人口分を加味して、努力して圧縮するけれども、結果的にはちょっと増えてしまうかなというところですね。もう一回り、織先生が来たからあれですけども、織先生にねじを巻いてもらって、真横以下にしろという命令を下してもらったら、役所の方、頑張ってやってくれるかもしれないですね。

真横だと言うけれども、37年のそれがありますけれども、それでも今まで結構、江戸川区は、環境部の方々はできないことをやってきたので、この辺で踏ん張って、上がるなんて弱気を出さないで、何とか頑張って、食べきり運動、せっかいいいものがあるし、こういうものでちょっと踏ん張って見たらどうかな。私の役割はそういう役割であるかもしれない。

松田先生は、厳しかったね。絶対できないということをやいなさいと言われてやって、

江戸川区は、全部、やってきたんですね。だから、もう一息、踏ん張るように頑張っていていただきたいなと思いますけれども、ほかの方々はいかがでしょう。

よろしいですか。

では、区に期待をして、頑張っていていただきたいということにしたいと思います。

続きまして、これで報告事項は終わりですか。

それでは、今日は、5時半にしてもまだたっぷり時間がありますので。

それでは、その他の前に、全体を通して思い出したり、質問したりしたいことがあったらお願いいたします。

ということで、どうぞ。

【限元委員】

限元です。

資料、わかりやすい資料をいただきましてありがとうございました。この食べきり推進店募集になっています資料の中でちょっと危惧したのは、「食品販売店では」という項があって、「閉店間近・賞味期限間近などにより値引き販売」、こういったものを推進していくと、かえって余計に購入して捨ててしまうことにつながりはしないかという危惧を持ちもしました。安いから買いためておこうというようなことになることも起こり得るのかなと。同じことを2回言いましたけれども、その辺のことはどれくらい考えておけばいいのかということです。

【岡島会長】

ありがとうございました。

【限元委員】

それから、もう1点だけ、フードドライブは、昨年度から初めてだんだん拡大していけばいいなと思っております。主にこれを展開する場所といえますか機会が、環境フェアと区民まつりとなっておりますけれども、私、よく存じ上げていないんですけども、年に何回ぐらいずつ、これは実施していくつもりなのか、あるいはこれから増えるのか、その辺をお教えいただければありがたいです。

【事務局（岡崎課長）】

これにつきましては、今、区としては年2回を予定しています。ですので、環境フェアと区民まつりです。

ただ、これを毎年2回、繰り返していても広がりがありませんので、私たち、今、目指していますのは、いろいろな町会、自治会さんもそうですし、エコセンターの登録している団体でありますとか、PTAでありますとか、学校とか、さまざまなそういう団体の皆さんに、ぜひこの取り組みを皆さんのほうでやっていただくような、そういうことができないかということ、今、働きかけを少しずつしているところです。そういうことができてくると、今、点で行っているものが、だんだん点が増えて面的な広がりになるのかなということで、これについてはぜひそういう方法に。

区としては2回やりながら皆様にお伝えしながら、今度は皆さんの中でそういうことをいろいろと発案していただいて、ご一緒に取り組めるような、そういうような方向性に持っていきたいと考えております。

【岡島会長】

ありがとうございました。

賞味期限は難しいところだけれども、もう若い人は賞味期限を切ると捨てちゃうんだよね。あれは賞味だから、味がちょっと落ちるかもしれないよというぐらいで、捨てることはないと思うんだけれども、ものすごいですよ。私も女子大の先生をやっていたころ、冷蔵庫で1日来ると、みんな、捨ててしまう。もう無条件に捨てるんです。においをかいだり、なめてみたりしろと言うんだけれども、今の子はにおいをかいでもわからないのかね。ちょっとにおったり、これはもう食べられないとか、何となく感じるではないですか。だけど、わからないのかな。それがわからないんだけれども、ちょっともったいなさ過ぎますね。

賞味期限というのを学校なんかでもよくやらないと。学校なんかも、賞味期限を過ぎても食べなさいなんて言って腹痛を起こしたりすると、責任がかかるからというので言わないというので、全部が早めに捨てちゃう風潮になっているんじゃないかと思います。

この辺は、なかなか難しいことかもしれませんが、今、隈元さんがおっしゃったように、人によっては早めにおなか痛くなる子もいるだろうし、人によっては全然何でもなくて、腐ったものでも食べちゃっても平気という人もいるかもしれないから、個人差があるのでその辺が難しいんでしょうけれども、食べ物については、小さいときから自己責任で食べるというふうにさせたほうがいいのかとも思いますね。そこまで踏み込むと異論もいっぱい出てくるかもしれませんが、何となしに違和感を私なんかは、年をとっているからかもしれませんが、持つんですよね。

現実の社会の中で賞味期限をどうやって押し込んでいくかというのは、なかなか難しい課題もあるかと思いますが、やはり家庭かな。

つまらないことを言いましてすみません。ちょっと気がついたので。

どうぞ。

【松川委員】

よろしいですか。

賞味と消費を一緒の感覚でとっている主婦とか、感じますね。まだ消費はいいんだよと言っても……、それは常日ごろ、会話の中で感じるがあります。

もう1つ、ついでのよろしいですか。燃えないごみの捨てる日が月に2回ですね。基本的には8時までに出しておくというのがルールなんですけれども、今までの例で言いますと、収集に来る時間が大変いろいろあって、家庭の主婦は、これは大体お昼ころかなという感覚をもう持ってしまっているものですから、つい最近、私のところであったことなのですが、もうとっくに収集が終わっているんですけども、午後になってもち

よっと山になっていて、どなたが出したか、わからないではないですか。そして、整理して、あと2週間、燃えないごみは来ないわけだから、困ったなと思って区役所にお電話して、翌日、土曜日の朝、とりに来てくださるという方法が得られたんですけども、この収集時間の設定というか、まず区民が知らないということがいけないんですけども、ほかでこういう問題はないですか。

【事務局（岡崎課長）】

これについては、やはり先ほどの車両も変わったということもあって、その辺で、収集のルートとかエリアも少しいろいろといじったりしているんです。ですから、全体の収集の時間が少し、各清掃事務所、なるべくずれないようにということでやっているんですけども、それでもどうしてもやはり収集量とか、現場によって出る量も、日々、変わってきているものですから、その中でちょっとずつずれたりすることがあって、今、お話のあったようなことはやはり地域によっては起きています。そのときには、ご連絡をいただいて、そうすると、基本的にはその日のうちに清掃事務所のほうでできる限り、もちろんそれはとりにいくという形でやっていますので、そういう場合は、いろいろお気づきの点があれば、もう何なりと事務所のほうにご連絡いただければと思っています。

【松川委員】

ただ、捨てた人自身は気がつかないわけですね。これは地域の責任かなとも思うんですけども、回覧とか何かの方法は、時間までに必ず出すようにとか、それも考えますけれども。

【事務局（岡崎課長）】

区のほうのお話としては、これ、ほんとうに申し上げにくいところではあるんですけども、一応、朝8時までに出してくださいというお願いをしております、そのところは、一応、そういうルールというのか原則になっていますので、例えば今度、何時ごろになりますよということを逆に言ってしまうと、8時までに出してくださいと言っていることと相反してしまうところがありまして、収集時間がこれぐらいになりますよという個別のお話はなかなか申し上げにくいところが事情としてあります。その辺がちょっとうまく周知のほうが、私どもとしては朝8時までに出してくださいというお話を中心にさせていただいているという現状がございます。

【松川委員】

基本的には、燃えるごみとかそういうものに関してはもう8時というのは意識しているんですけども、今回のように燃えないごみに関しては、ちょっと住民の意識がなくなっているかなと。今までとりにいらしていた時間まででいいなという感覚があるから、多分、ほかでもあるかなと感じたんですけども。

【岡島会長】

そうですね、多少の改良の余地があるかもしれないし、出した人があれでなければ、今日は終わったよというステッカーを張っておくとか、何か工夫しないと、終わっちゃ

ったんだ、では、2週間、持っておこうと。また来るのではないかと思って、終わって
いないと思って置いていくわけだから、終わったということを知らせるだけで大分違
うんじゃないですか。輪っかを置いておくとか、ステッカーを張るとか、今日は終わ
りましたみたいな、何月何日と書いておけば。

ちょっと工夫がないと、両方、善意といえば善意ですね。生活していて、毎
回、出していけば8時に出すけれども、来るのが10時だと思えば、誰だって10
時で間に合うと思うもの。それでその日に限って9時に来てしまったりとい
うところの両方の善意をうまく合わせるためには、今日はもう残念ながら
終わったので2週間後にどうぞとか、何か工夫があるかもしれないですね。

どうぞ。

【小野瀬委員】

今のお話、私、別に区の回し者ではない、区の肩を持つわけではないんです
けれども、私どもの町会では、月に2回ということのを回覧で徹底させていま
すし、8時までに出せということのを徹底していますので、我々の町会では
そういうことはあまりないのですが、確かにおっしゃるようなことあるか
と思いますけれども、それはやはり違う問題じゃないかと思うんです。

【岡島会長】

いや、小野瀬さんみたいなおっかない人がいるところはちゃんと通るの
です。普通は、例えば外国人とか大学生とか、回覧板なんて読みやしません。
それはちょっと難しいのです。いろんな人がいて、小野瀬さんのところ
はうまくいっているところだから、それが江戸川区全体の70万人の基
準になるかといえば、上クラスだから、そういうことができる人というの
は2割ぐらいしかいないのではないかと。2割か3割か知りませんが、
できない人が多いから苦労している。そのところはぜひ、小野瀬さん
みたいな人がいっぱい町内会にいてくれれば文句ないんだよね。という
結論です。

ほかにどうですか。今までの議論の中で、何か言い忘れたことがあ
れば、お話を聞いて。どうぞ。

【田口委員】

食べきり推進運動ですが、ここにも書いてあるんですが、ご飯とか
麺類を調整をして初めに注文を例えば受けるとすると、そこでも
初めに大中小とか、そういう形で、受け入れやすいような形でお客
さんに聞いてみるとかという形をとっていただいているのではないかと
感じました。

それと、これ、非常に難しいんですが、今度、来た係長さんのところ
と前に所属しているところと今のところ逆になっちゃうのですが、健康
ということを考えると、我々、小さいころは無理しても食べなさい、
残してはだめですよということなんです、僕がぐあいが悪くなって
医者にかかったときに、狭心症だということなんです。

そのときに言われたのは、ご飯とか食事はもったいないという気持
ちはするな、残せ、

それが一番健康に大事なんだと。それで、腹八分目にしろと。八分目を七分目にしたりなんかすると体重が落ちるから、よくかんでゆっくり食べると健康上はすこぶるいいということで言われまして、私も体重をそのときに10キロぐらい落とすなさいということと言われまして実際に落とすわけなんです、そのときにそういうことを言われて、もったいないという気持ちは、そのとき、捨てるようにしました。水を差すような話をして申しわけありません。

それから、消費期限と賞味期限は二重表示にさせていただいて、どっちが大事か、大きな字で目立つようにすることも一つの方法ではないか。これはつくるほうの考え方だと思いますが、昔、ペットボトルは透明なやつだけではなくて茶色いペットボトルもあり、いろいろな種類のボトルがあったわけなんです、それが今、ほとんど透明になりました。そういうことで、表示の仕方をつくるほうに検討してもらうことが大事ではないかなと。

スーパーで購入するときには、買ってきたものが冷蔵庫の奥のほうに行ってしまうと、それこそ旅行に行く前にそれを片づけて、それから旅行へ行こうということになりますので、調整をしながら購入をするように癖をつけてもらったほうがいいんじゃないかなと、そういうふうにはやって書いていました。

どうもすみません。

【岡島会長】

ありがとうございました。

健康の問題とそれは別問題だから、簡単に言えば七分目の量を注文すればいいわけです。おっしゃったように、上中下みたいな、大中小みたいなものがあるんで選んでくださいとあって、体のでかい人は大でも七分目だけれども、小さい人は小で七分目と。七分目か、八分目か、腹いっぱい食うのかは本人の勝手だから、ごみの問題とは関係ない話です。

私なんか、今、血圧が高いから、必ずどこに行っても塩抜きとか、減塩と言うんです。ラーメンなんかは特にそうだね。減塩、塩を入れない、それを言わないとえらくしょっぱいものが出るでしょう。今でも、ちょっと思いついたけれども、小さい食料とか、小さなおわん等に入れるように、減塩とか、砂糖減とか、そういうふうと一緒に言える店が出ると便利でいいのではないかなと思うんだけど。

今、田口さんがおっしゃったのは、健康の面とごみとでは、同じところでぶつかるけれども実は違う話なので、そのところはお互いに了解しておかないといけないと思います。食べ過ぎは本人の勝手ですけども、残しの問題はちょっと違うので、そこは水は差していないので大丈夫だと思います。

ほかにいかがでしょう。

それでは、発言されていない方もいるし、今回、最後だし、松本さんのほうから順番に、2年間の話でもいいし、日ごろ、思っていることだけれども、発言する場がなかつ

たことでも結構ですし、一通り、小野瀬さんまで、1人10分もしゃべられてしまうと困る。ぜひお話をいただければと思います。

【松本委員】

どうもありがとうございます。

まず食べきり推進の問題。私は、どこに行っても商店街に加盟店の店舗しか行かないんですけれども、いろいろ話を聞いたり何かして、例えばサラダ、レギュラーサイズが600円なんですけれども、「それはいいよ。ハーフをお願いします」と言うのです。そうしたら、値段もハーフかと思ったら、値段は450円だった。そういうことがあったりした。冗談半分で、半額ではないのかという話をしたりとか。

そして、私も、スーパーのすぐ近くにいますので、夜8時からほとんど半額セールとか、そういうことがあって、大体1時間ぐらいはほとんどの、その半額セールの商品はなくなっているという感じがします。これ、いろいろな意味で区のほうの指導かなと思っております。

商店街も、多分、この食べきり運動は、健康にいいのではないかなと思いました。

【岡島会長】

ありがとうございます。頑張ってください。

牧野さん、全体を通じて。

【牧野委員】

先ほど会長がおっしゃったとおり、もう10回ですか、今回、やらせていただいて、やはり一步一步、ほんとうに江戸川区はやってきたなというのが、ほんとうに地味なことをやってきて、このような数字に出てきているんだなということを、今日、改めて、この資料を見せていただきまして、感じさせていただきました。

【岡島会長】

どうぞ。

【田口委員】

私も、一番初めで、その次の次ぐらいですか、ちょっと抜けたんですが、また戻ってきたのですが、今、牧野さんが言うとおり、江戸川区は一步一步、いいほうにどんどん努力して、それを実行に移しているということを、常々、考えています。

江戸川区は都心と違って住民が仲がいい、そういう感じがありますので、スムーズにお互いに話し合いは、スムーズに行くと思います。これからも、ぜひともいい環境づくりができるようにと思います。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

【岡島会長】

それでは、波多野さん。

【波多野委員】

今回、初めて2年間、経験させていただきました。非常に有意義だったと思います。

2年間させていただいて、部分的にいろいろ意見を聞いていただけて、一步前進したなというのが、行政に伝わるなというのは非常にうれしかったというところがあります。

ただ、自分の家の周りを見ていて、分別回収とかが全然まだ進んでいない。その辺が、どうやったらもっと進められるのかなというのは、もっとやりたいけれども、それを個人に言っても拾われないので、その辺をどうやったらいいんだろう。この30%資源の回収をするためには、その辺をどんどん進めないといけないなと思います。その辺をどうやればいいのかと、自分でこれからいろいろなところで課題として持っていきたいなと思います。

今後も続けられればやっていきたいなと思います。

【岡島会長】

ありがとうございました。

では、隈元さん、どうぞ。

【隈元委員】

会長さんはじめ事務局の皆さん方、素晴らしい資料をつくっていただきまして、素人だったものですから、初歩的な質問ばかりして申しわけありませんでした。

2年間、回数はそんなに多くなかったですけれども、かつてはそんなにごみ問題とか、環境問題とか、考えていなかったものが、この年になってやっとですけれども、小さなプラスチックの袋からしっかり捨てようみたいな、だんだん先祖返りしていくんですね。子供、小学生の小さい子どもたちが一個一個拾ってごみを始末する、そんな行動をだんだん私自身も始めてきつつあります。おかげさまだったと思います。

ありがとうございました。

【岡島会長】

ありがとうございました。

金子さん、お願いします。

【金子委員】

私は、7期と8期と2回やって、合計4年、やらせていただきましたけれども、4年の中で何をやってきたかなと思っていると、やはり生ごみの話をずっと言っていたように、そのあたりが専門みたいな話になったのかな、ちょっと反省はしています。

私、この大事なプランをつくっていただいたんですけれども、いわば進捗状況より、トレンドというか、今までのトレンドからいって必ずできると思うんです。それは当然なんですけれども、ただ、加速させていかなければならないと、日々、思っているんですね。

それで、5月の連休に浜名湖のホテルに遊びに行っただけです。その静岡新聞というところに目が行ったら、静岡新聞に湖西市のごみ減量のまた生ごみなんですけれども、水切りの新しい機械か何か、器具なんかで、2億円も削減できたというんです。これはすごいなという話を見て、すぐパッと思ったんです。

これを江戸川でまたやれるかなと考えたけれども、ただ、問題は、江戸川の場合、補助金でやるという話になると無理な話ですから、これをエコセンターとか、そういう団体に任せてやらせたらいいのかなと、今、考えているんです。ちょっと研究してもらえませんかでしょうか。これが最後、私のお願いです。よろしくお願いします。

【岡島会長】

ありがとうございます。

松川さん。

【松川委員】

よろしいですか。

古いだけは古いんですけども、牧野さんが入られた後にご一緒させていただいて、ほんとうに最初は何が何だかわからないという感じでした。自分の住んでいるところが、小松菜のビニールハウスとお花づくりの地域なものですから江戸川区でも一番のどかと私は思っておりますが、住民性というか、地域力はとても自慢ができるところで、ほんとうに一主婦の意見しか言えない部分があって、いつも皆さんのレベルに達していないなと思いながら参加させていただいています。それを我々の後ろにいてくれる仲間に伝えることを今までもしていたかな、そういうふうに思っておりますが、お役に立てたかどうかということで、いろいろありがとうございました。

【岡島会長】

ありがとうございました。

千倉さん。

【千倉委員】

この食べきり推進店というのは、よそではどこかでやっているのですか。ほかの区でとか。

【岡島会長】

どうぞ、松本さん。

【松本委員】

自治体によっては、既に取り組んでいるところもあります。

【千倉委員】

そうですね。これは非常に素晴らしいことだと思うんですけども、これを見ると、江戸川区では、家庭から、年間2万トンの食料ロスがあるということであれば、次年度、29年度は、家庭から出るロスをどう処理するか、これが一つの考え方ではないかと思えます。

私、これ、ちょっと突拍子もないような話ですけども、ごみの収集というのは、私の子供のころからずっと変わっていないような気がするのです。分別されるぐらいのことはできても……。これから、電線も地下へ入るとか、そういう状況になってくるんで、相対的に見てごみも、あんな収集車ではなくて、将来的には下水と同じような、何かあ

あいう方法がとれないのかどうか、ひとつその辺のところも研究課題ではないかなと思っております。

そして、私ごとですけれども、ここで4年の任期が終わりまして退任ということだったんですけれども、先日、もう1期、2年やれと、こういうことですので、もう2年間、お世話になりますけれども、よろしく願いいたします。

以上です。

【岡島会長】

ありがとうございました。

小野瀬さん、お願いします。

【小野瀬委員】

ごみ減量は最大の課題でございます。いかにしてごみを少なくしていくかということ、もう家庭でやっていかないとできない問題なんです。私どもは、集合団地、私どものところは戸建の住宅の町会でございますので、町がきれいになったところも、私どもの瑞江のほうは町がすごくきれいになっているわけです。

私どもの一番近い区には瑞江の火葬場というすばらしいところがあるわけなんです。もうこれは、2年、必ず私はなると。言いつばなしでは困るんですけど、あそこに参っているいろいろと話もするんです。あそこから出るごみの量、いろいろな清掃工場も、毎月、ごみの廃棄、煙突から出る廃棄の量のいろいろなデータを出してくれるんです。火葬場も、それは出しています。私どものところへそういうデータを持ってきます。

それは4つの町会が絡んでいるところなので、そういう意味で、火葬場の宣伝するわけではないんですけれども、町会に達して、やはりごみをいかにして少なくするかということなんです。もちろんそれは家庭が一番大事なことですから、家庭が一番取り組まなければならない問題なんです。それを私ども町会自体が先頭を切ってやっていこうということになってくると、町会自体でいわゆる資源回収というものを、これはもう大きなものがありますので、それは毎月、第二日曜日にそれをやるわけです。相当な雨でもない限り、普通の雨だったらもうやってしまいます。業者との提携もありますので。

そういうことをやっているおかげで、行政側の指導もあるんですが、それは今はなしで、やはり町会自体で独自でそういうことをやっていること自体が、やはりごみの減量化につながっていくと思うんです。ただ、それはもう我々としても、これをやめるんじゃないかと、どうしたらもっとよくなるかということ、これは毎回お世話になって相談しながらやっていたり、ごみの減量化ということ、これを絶対的に成功させていかなければいけないなと思っています。

生ごみは、それはそうですね、とにかく余ったらすぐ捨てちゃうということじゃなくて、ごみの活用なんていうのもいろいろ方法はあると思うんです。細菌にするとか、いろいろと、いろいろなところでそういうことをやっておりますけれども、いずれにしても、とにかく行政の指導も、もちろんそれも大事ですけれども、我々のほうで行政

を動かすような力を持って、そのような意気込みで私どもも頑張りますので、ひとつよろしく願いいたします。

【岡島会長】

ありがとうございました。

やはりみんな、いいことを言いますね。波多野さんの言っていた全体、だめなところをどう引き上げるか。要するに、江戸川区は今、大分よくなってきたので、もう次のステップに入ってきているのではないかと思うんです。ただ、技術力だとか、そういうのではなくて、人々の気持ちがそっちに向かって減量する。ということは、今、おっしゃったように、周りで捨てている人をどうやって引き上げるかとか、そういう方法論とか、金子さんのような機械の話もあるし、千倉さんのおっしゃったようなこともあるし、皆さん、すごくいい提言だと思うんです。

ぜひ今日のご発言を役所のほうも耳に入れて、すごく大きなヒントで、全体で言えることは、ここまで来たから、ここでもうワンランクジャンプアップする必要があるだろうという、方法論も、もう一步、違った方法論があるんじゃないか。環境教育のようなジャンルに入ってくるかもしれませんが、そういうことがあるのではないだろうか。

小野瀬さんがおっしゃったように、町会とか商店街で、競争と言うと言葉が悪いけれども、よくあるじゃないですか、あの地域は勉強ができるとか、あの地域はけんかが強いとか、いろいろあるんだけれども、あの地域はエコに強いというようなものが、小野瀬さんのところはかなり強そうだから、そういう遊びでランキングとか、商店街エコランキングとかということをやると、やる気になってしまうと、それは遊びだということを前提としながらも、少しそういうことをやると、町会対抗などやったらおもしろい。町会対抗減量大会で、そのときは必ず表彰しなければいけないんだよ。実入りがあるようにちゃんと賞品もつけてやらなければいけないけれども、そういう企画なんかも……。役所がやりにくかったらエコセンターなんかにはやらせれば、民間が勝手にやる分には怒られないから、何かそういう工夫もあってもいいかもしれないです。

大変素晴らしいご意見をありがとうございました。

竹内先生と野崎先生からも一言ずつ、最後に織さんから総括的にお話しいただければと思います。

【竹内委員】

ありがとうございます。

我々議会のほうは当て職でございまして、各年度の委員長がこういう場に委員長、副委員長で参加させていただくということで、今日はほかの皆さん方の貴重なご意見を頂戴しました。基本的には江戸川区は日本一のエコタウンを目指そうということで大目標を掲げさせていただいて、昨日も実はボランティアフェスティバルというのを、小野瀬さんたちとも一緒に参加させていただいておりましたけれども、昨日、ボランティアフ

フェスティバルというのが、江戸川区を日本一のボランティア立区しようという大目標を掲げて、85団体が参加して、誰でも、どこでも、いつでもというスローガンのもとにやらせていただいた。

私としては、エコの日本一を目指すという江戸川区の大目標を掲げさせていただいていますので、いろいろな、さまざまな貴重なご意見を、我々議会としましても、一つ一つ、学ばさせていただきながら、議会としても日本一のエコタウンを目指そうという大目標を目指してやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いをいたします。

【野崎委員】

竹内委員長の言うとおりで、我々も議会の中でそのような意見を言いながら、まだ私も新人で1年目ですが、先日の定例会で、小学校のほうでリサイクルを大分やらせていただいて、テントを買ったりとか、避難所を、学校に創設というか、開設しましたので、その際の自主防災器具とか、年間80万で、10年前にやったので800万くらいたまって、その学校で備蓄しているんですけども、やはり今、会長が言われるように、何か意欲がわくようなものがあれば、目標があれば具体的にできるんだろうし、やってみなきゃわからないことですから、とにかくやってみて改善をするというのがいいのだろうと。明らかに数字がこれだけ下がってきていることは、皆様のご努力だと思いますので、その自信を持って、私も区民の皆さんに、江戸川区はすばらしいということを伝えていきたいなと思います。ひとつよろしく願います。

【織副会長】

すみません、新小岩の駅でまさにちょうど2時50分ぐらいに人身事故があって、30分以上、電車がとまってしまっていて、ほんとうに申しわけございませんでした。

今、そういうわけで最初のほうの話をお伺いできなかったのが、ちょっと最後、残念だったなと思いますが、岡島会長もおっしゃっているように、江戸川区はほんとうにいろいろトライをしてきているところで、最初のビデオにもありましたけれども、小型家電、なかなか自治体が手を挙げていない中で、江戸川区は取り組んでいただいて、まだまだ量的には、多分、少ないと思いますが、そこそこよりも上がっており、非常に優秀な、なかなか小型家電が乗らない中でやっていただいていたという印象です

それから、私が副会長就任させていただいた4年前ぐらいのときには、まだ古着のリサイクルを始めましょうよというような、それこそ皆さんから問題提起があったのが、今ではちゃんとウエスとしてリサイクルできているシステムができている、これはやはりすばらしいことです。

やはり市議会の中で、金子さんをはじめ、生ごみを何とかしようと言っている中で、フードドライブですとか、今回の食べきりみみたいな話も出てきていて、結構、新しいところにごくチャレンジをなさって、それなりにきちっと制度化していらっしゃるの、ぜひこれを継続していただくのが、まさに町内会の皆さんのお力添えだと思いますが、そのところをぜひ頑張っていたいただきたいなど。

最後、食べきり、これからすごく重要なポイントになってくる。先ほど賞味期限と消費期限の話が出てきたんですけれども、まさに皆さん、おっしゃっているように、消費期限というのは、賞味期限と消費期限がつけられる食物がそれぞれ違っておりまして、実は賞味期限があるものは消費期限はないんです。賞味期限というのは、逆に言うとおいしく食べられるのはここまですとメーカーは表示するけれども、だめなのはここまですとメーカーが表示しない食品の種類なんです。ですから、消費者が、自分のリスクで、ここからはだめだなと判断するのが賞味期限がついている物質なんです。

消費期限は、もう明らかに腐っちゃう、5日ぐらいたつとアウトになってしまうものというのが……。これとは別に保管期間が長い加工食品ですとか、生鮮食品みたいな賞味も消費もつけなくてもいいというものもあります。ただ、これはあくまでも法定上の話なので、メーカーがみずから進んで消費期限を決めたほうがわかりやすいというのは、それはそれでできると思うので、またそういう議論もしていくとおもしろいかなと思います。なぜそんなふうに賞味と消費で、メーカーがだめだよとわざわざ示してあげる分野と、消費者の自分のリスクでやりなさいという分野をつくったのかというのも、多分、議論していけばおもしろい話になるのかなという気はするので。

そういったところで、多分、あともう1点は、これはイギリスとかでもよく話をしていたんですけれども、食べきりの話をするとき、やはり消費者は得がいいので、何個かで1個で安くなるという無駄なものを買うことが多いんです。そのときに、つまりリンゴを二袋買うと安くなりますという、結局、無駄なものが多くなるから、そこをリンゴとナシを2個で買えば得ですよみたいな形に、売り方のほうでもその辺の、量を買うと安くなるというのを工夫していただくと大分違うんじゃないか。これ、イギリスのほうのNGOがやっていた運動なんです。

やはり多く買ってしまう癖みたいなもの、ちょっとでも安くなるからついつい多く買っちゃうんですけれども、それがわりと根本的なところもあるかなと。もちろん商品もあるんですけれども、買い方自体も、多分、私たち、変えていかなくちゃいけない時代になっている。売り方もそうですけれども、その辺、次の議題としてというか、話として、まさに売り方、買い方、そういったものをまた議論していけたら、また次のおもしろい制度ができるんじゃないかなと思いました。

ほんとうに江戸川区、皆さん、熱心で、おもしろい意見もいっぱい出て、ですから、岡島先生も、こんな青森から遠いのになぜといらっしゃって、ほんとうに続けていらっしゃるのは、まさに、多分、事務局の一生懸命さと審議会の委員の皆さんの魅力によって、私は区外の人間なんですけれども、非常に楽しく参加させていただいています。

またよろしく願いいたします。

【岡島会長】

どうもありがとうございました。

ちょっと考えていたんですけども、昔、卓球というのは暗いイメージで、わざわざ明

るい卓球と言わなければいけなかった時代があったんです。私の友達なんか、苦労して、白いボールをオレンジにしてみたり、服をちょっと変えてみたり、ボードの色を変えてみたり。明るい卓球って、最近、言わなくても、多少明るくなった。

ごみもそうだと思うんです。この審議会は、結構、皆さん、発言もするし、区ということで顔見知りの人もあるしとか、そういうことで非常に和気あいあいとやっていますでしょう。これ、いろいろなところの審議会を私もやっていますけれども、ここは非常に和やかにできているし、発言もかなり自由にされる。

私も思うんだけど、ごみとかくず屋とかという話じゃなくて、環境部というのは、時代の今や、地球環境を考えれば最先端の事業をやっているわけです。イメチェンして、暗い清掃じゃなくて明るい清掃というふうに。

そのようにまずは思ったんだけど、ここに女性が座っていないでしょう。女性の幹部職員登用ぐらいから始めていただきたいなと思いますけれども、要するに明るい環境というほうにイメチェンをしませんか。区長に言ってください。

そんなことで、最後に事務局からご連絡事項がありましたら、お願いいたします。

【事務局（岡崎課長）】

ありがとうございました。

それでは、最後に事務局から連絡事項ということでございますので、まず第47回の審議会、前回でございます、議事録につきまして、訂正等ございましたら7月22日金曜日までにということで、清掃課庶務係のほうにお願いをできればと思います。

次回の審議会、これはまた9期目がスタートということになりますけれども、この日程につきましては、また決まり次第、別途、ご連絡をさせていただきます。

事務局からは以上でございます。

【岡島会長】

それでは、これもちまして閉会とさせていただきます。ご協力、ありがとうございました。

了